

特別講演

精神障害者の回復と自立 ーべてるの家の経験から

北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科 教授
社会福祉法人「浦河べてるの家」 理事

向谷地 生良

精神障害者の回復と自立 —べてるの家の経験から—

北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科 教授

社会福祉法人「浦河べてるの家」 理事

むかひやち いくよし
向谷地 生良

べてるの家の歩みは、今から30年前、統合失調症などがかかえた当事者による自助活動に端を発している。その活動の中からべてるの家は生まれた。そして、過疎地域に暮らすもつとも困難をかかえた町民としての当事者の回復は、「地域の回復」と常に一体と捉え、街づくりへの参加を志し、自ら仕事を興し、地域に貢献してきた。そこから見えてきた回復とは「自分らしい苦勞の取り戻し」という言葉に象徴されるように、「いかに生きるか」という生き方の模索であり、生きる苦勞の具現化として常に「働くこと」と「起業」することを大切にしてきた。「働くこと」をあきらめ、そこから排除された当事者が、街の片隅で「地域のために」という錦の御旗をかかげ歩み続けてきた歴史を振り返る中で「精神障害者の回復と自立」のテーマに迫ってみたい。